

こと たま

今田 真理子

ことばを のみこむ
いま いったは ならないと
おもえたから

はつせられなかった ことばは
ちゆうで うかんで ただよい
しゃぼんだまの ように
じらじら じろじろ
ゆらいで ゆれて
ばるん と おともなく
はかなく きえてゆく よに みえる

ことばを のみこむ
のみこむのに
なみだが にじむ よな
かたい とげも ある

のみこんだ ことばは
ゆらふら ゆらいで
ころいど ようえきの ように
つかのま あたりを にごらせ
そおっと おともなく ふりつみ
しいんと あえかに
しずまりゆく よに みえる

うかんだ ことばは
ちゅうを ただよひ
たいせきした ことばは
ときおり ふいに まいあがり
あたりを かすませる

そうして いつしか
ほの きよらに かがやき はじめる
いつしか しらぬまに
ぶふ ぶすんと くすぶり はじめる
あれは なんだったのかさえ
わすれてしまった ころあいになって

それは とても かすか
けれど きえさは しない
ふいと とおざかり
うかんで は きえ
きえては うかぶ

まるで かけがえのない
けれども おぼろかな
おもかげの ように
ゆらふら ゆらいで
いつまでも こだます

ことたま にて おもい
ことたま にて かたる なれと われ
きくも なれと われなりて
そまつに しますまいぞ

このみち そのみち

このみち そのみち

あのみち このみち

どのみち とおる みち

ほんと？

このみち あのみち

そのみち このみち

どのみち とおる みち？

いいえ

いちどしか とおらないみち

とおれない みち

だれかが かわりに

あるかない みち

あるけない みち

このみち そのみち

あるけば できるみち

みちのり たいせつに ね

花は

花は なあんにも

いわずに

そっと 咲いている

花は なあんにも

いわずに

そっと 散ってゆく

花は なあんにも

いわずに

そっと 実をむすぶ

種は なあんにも

いわずに

そっと 落ちて

ときが 来るのを

まっている

なあんにも いわずに